



メモ

中之島遊歩道は、78年に都市計画決定した歩行者専用道路。堂島川左岸と土佐堀川右岸に、中之島をほぼ一周するように設けられる。京阪中之島線建設工事に伴い、堂島川左岸の一部を一時的に撤去し、川にせり出すように歩道が仮設されている。

御堂筋のカタリ

は新鮮に映った。きょうもその新鮮な思いで、水面に映るイルミネーションの明かりを、ステンドグラスの明かりのように受けとめた。

大江橋から堂島川に沿って渡辺橋に向かう工事中の遊歩道も、天満橋から国際会議場前に伸びる京阪電車の中の島線開通を控えて、急に関心が深まってきた。堂島川に架かる中之島ガーデンブリッジは交通路ではなく、憩いのプラザといっ

午後6時前後で、花の咲くアーチに架かっているイルミネーションに明かりが点っていた。最近ではイルミネーションの技術も上がり、都市空間を照明でデザインする演出家も現れ、憩いと安らぎ空間を満喫させてくれる。夕闇せまる薄明

政と企業がそれぞれの知恵を出し合って、安心して憩えるゾーンをいくつも設計してほしいものである。

知恵が出なければアイデアアコンペを実施して、市民参加ムードを盛り上げてほしい。ハード、ソフトを含めた社会関係資本の構築には、市民、行政、企業の三者が等間隔で連携する仕組みが必要だ。そうしないといくら条例や法律で規制しても、中之島からブルーテントは消えないだろう。

明かりのファンタジー空間

た感じで水上気分を満喫できる。ここからちょっとバツクして御堂筋に面する大阪市役所方面を花のアーチ越しにみると、ファンタジックな空間が切り取れて、足がくぎづけになった。

かりの宵に明かりの点と線で描く空間は、水辺の近くでガラスの箱に収まったお庭のようにファンタジックで、清涼感も加わって非日常的なひと時となった。

私もそんな誘惑に身を任せて、気の赴くままにベンチを走らせた。10年ほど前にステンドグラスの展示会で、ガラスを通して見る色彩の神秘さに魅せられた記憶がある。日ごろ反射光による色彩ばかりを見てきただけに、透過光による色彩

